

眼科

1. スタッフ（2023年4月1日現在）

科 長（教 授）川島 秀俊
 副 科 長（准 教 授）高橋 秀徳
 外来医長（講 師）新井 悠介
 病棟医長（助 教）坂本 晋一
 助 教 佐藤 彩
 助 教 渡辺 芽里
 助 教 伊野田 悟
 助 教 恩田 昌紀
 助 教 粕谷 友香
 助 教 長岡 広祐
 病院助教 高橋 良太
 病院助教 近藤 由佳
 病院助教 案浦加奈子
 病院助教 守屋 穂
 シニアレジデント 12名

2. 診療科の特徴

当院では、大学病院という3次医療機関であるため、地域の医療施設と密接に連携体制をとり、急性期の治療を中心に診療を行っている。特に、専門外来（角膜・緑内障、ぶどう膜炎、網膜・硝子体、黄斑、ロービジョン、弱視・斜視）を充実すべくスタッフ一同、常に最新の高度医療の導入に努力している。

診断面では、通常の眼科診療に必要な機器を完備しており、さらに光干渉断層計（OCT）、ICG眼底撮影（HRA II）、広角眼底撮影装置、前眼部三次元画像解析装置、等々最新の診断機器を備えている。

治療面では、中央手術室に眼科専用手術室を2室設け、それぞれに最新の超音波水晶体乳化吸引術装置（インフィニティ）、硝子体手術装置（コンステレーション）を設置し対応している。また、加齢黄斑変性に対しては抗VEGF療法を積極的に行っている。

当院では、電子カルテシステムが導入されている。眼科においては、さらに眼科サブシステムを用いて、画像データや手術スケジュールの管理、各種病態の説明に使用しており、効率がよく、医療安全の面からも有益なシステムを構築している。

・認定施設

日本眼科学会専門医制度認定施設
 日本眼科学会専門医制度研修プログラム施行施設

・専門医

日本眼科学会専門医認定医

川島 秀俊
 高橋 秀徳
 佐藤 彩
 新井 悠介
 渡辺 芽里
 坂本 晋一
 伊野田 悟
 高橋 良太
 恩田 昌紀
 粕谷 友香
 長岡 広祐
 近藤 由佳
 案浦加奈子

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介割合

新来患者数	2,436人
再来患者数	34,140人
紹介割合	90.3%

2) 入院患者数（病名別）

病 名	人数
白内障	1,177
緑内障、高眼圧症	207
網膜剥離	249
網膜前膜	162
糖尿病網膜症	141
黄斑円孔	60
角膜疾患	21
斜視	27
甲状腺眼症	25
視神経炎	3
急性網膜壊死	8
原田病	8
眼球破裂	9
その他	229
合 計	2,326

3-1) 手術術式別件数

入院手術	人数
白内障手術（白内障手術のみ）	1,297
多焦点レンズ挿入術	22
経強膜網膜剥離手術	43
硝子体手術（白内障同時手術含む）	816
緑内障手術（白内障・硝子体同時手術含む）	232

斜視手術（小児・全麻）	27
角膜移植手術（白内障同時手術含む）	8
眼球内容除去術・眼球摘出術	15
眼瞼内反症手術・眼瞼下垂症手術	31
その他	69
小 計	2,560
外来手術	人数
涙道手術	69
眼瞼手術（内反症、下垂症）	24
眼瞼手術（その他）	42
結膜（翼状片）	63
結膜（その他）	32
角膜手術	10
斜視手術	85
虹彩・毛様体・隅角 手術	22
後発白内障手術	30
小 計	377
合 計	2,937

4. 2023年の目標・事業計画等

大学病院の眼科の使命として、教育・研究・臨床の3つを行うことが要求されている。

教育は、学生教育のみならず、専門医を育てる必要がある。最新の医療技術を安全確実に提供できる眼科専門医を養成する。

医学や医療の発展のために、単に日常診療のみに流されることのないよう、常に新知見を得る努力を怠らないように心がける。

導入されている最新の医療機器を有効利用し、重症患者に対する質の高い医療を提供する。

3－2）術後合併症数

4）化学療法症例・数

該当なし

5）放射線療法症例・数

7 例

6）その他の療法（免疫療法）症例・数

ペーチェット病 18例
原田病 8 例

7）悪性腫瘍の疾患別・臨床進行期別治療成績

該当なし

8）死亡症例・死因・剖検数・剖検率

該当なし

9）主な処置・検査

蛍光眼底造影、超音波画像診断装置、
前眼部及び眼底光干渉断層計（OCT）
超広角走査レーザー検眼鏡（OPTOS）
スペキュラーマイクロスコープなど

10）カンファランス症例

クリニカルカンファランス
毎週木曜日午後5時30分より